

学校概要

創立 47 周年	学校長 大竹 貴子	副校長 稲川 英徳	学期 2 学期制	児童・生徒数 675 人
学級数 一般級: 19 個別支援級: 5			主な関係校: 保土ヶ谷中学校	

学校教育目標

「さわやかに かがやいて 目標を持って 共に歩もう」
 (知) 個に応じた指導を工夫し、課題解決に向けて粘り強く取り組む姿勢を育てます。
 (徳) 善悪の正しい判断力を身につけ、自他を尊重する心や態度を育てます。
 (体) 心と体の健康に進んで取り組む姿勢を育てます。
 (公) 地域に愛着を持ち、地域の一員として役に立つ喜びを感じる子を育てます。
 (開) 様々なコミュニケーションを通して、視野を広げ、考え深い子を育てます。

学校の特徴

□相鉄線上星川駅より徒歩6～7分の住宅街にあり、駅にも、国道16号線にも近いが、比較的静かである。
 □近くに小川の流れるせせらぎ公園をはじめ、緑も多く、恵まれた環境である。
 □地域との連携が特色で、ふれあい教室、ふるさと祭りといった、地域の教育力を活かした2大行事があり、子どもはともにも楽しみにしている。それに加え、隔年で、地域と協働した防災避難訓練を行っている。
 ■児童数は少しずつ増加の傾向だが、ここ数年で個別級の人数が急増している。また、軽度の障害を持ち、一般級に在籍している児童も各クラス数人ずつおり、配慮ある対応が必要となっている。
 ■学力状況調査の結果は殆どの学年・教科も市の平均を下回っており、基礎・基本の定着に力を入れる必要がある

学校経営中期取組目標

○地域や保護者との連携を深め、協力して児童の育成に取り組む、開かれた学校づくりを推進します。
 ○個に応じた指導を充実し、個々の児童の特性を發揮し活躍できる場を与え、生きる力の育成をめざします。
 ○全教職員が課題を共有し、解決に向けて協働して取り組める学校体制を構築します。

小中一貫教育の取組

保土ヶ谷中 ブロック : 保土ヶ谷中学校、常盤台小学校、上星川小学校、坂本小学校、星川小学校

9年間で育てる子ども像	○保土ヶ谷の町と関わり合いながら学び、町を大切に子ども ○人・もの・ことのかかわりを通して、豊かなコミュニケーション能力を持つ子ども ○学習や生活のよい習慣を身につけ、確実に自分の力を伸ばそうと努力する子ども
自校の具体的取組	○地域や保護者との連携を深め、協力して児童の育成に取り組む、開かれた学校づくりを推進します。 ○個に応じた指導を充実し、個々の児童の特性を發揮し活躍できる場を与え、生きる力の育成をめざします。 ○全教職員が課題を共有し、解決に向けて協働して取り組める学校体制を構築します。

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	○子ども一人ひとりを丁寧に見取り、個に応じた指導の充実を図る。課題解決学習を浸透し、自主的、自立的に学習に取り組む力を育てる。	○学習指導の目標を具体的に設定し、基礎基本の定着に力を入れる。○朝の帯時間を活用し、読書量を増やしたり、学習の復習を行ったりする。○国語科を重点研究とし、個に応じた支援を充実させ、分かる喜びを味わうことができる授業を実践する。
豊かな心	○道徳指導や異学年交流を通し、他者を思いやる心の育成に力を入れ、社会のルールを守るとともに自他を大切にすることを育てる。	○学習や行事など様々な活動を通して、子ども一人ひとりに達成感や充実感を味わわせ、自尊感情を高める。○幼保小交流、なかよし班活動を通して、相手を思いやる心、親しみや尊敬の心情を育てる。○道徳の公開授業を毎年一人一回は行い、心の教育に力を入れる。人権週間にいじめや人権問題につながる授業を行い、その内容を保護者にも伝える。
健やかな体	○体育の授業や食育、キラキラタイムの取組等を通して体力の向上を図り、子ども自身の健康管理能力の向上をめざす。	○様々な運動を体験できる機会を増やし、運動の楽しさと大切さを感じ取らせるとともに、自ら運動に親しもうとする心情を育てる。○自分の健康に関心を持ち、食の大切さを知ることにより、健康的な食生活や運動経験を自ら選択できる素質を育てる。
児童指導	○子どもとのコミュニケーションを大切に、児童理解に努める。 ○挨拶の励行、学校のルール遵守、いじめを許さない風土作りをめざす。	○多くの目で子どもを見取り、育てることを心がけ、学年やブロック、児童支援専任とともに指導に関わる。○給食を一緒に食べたり、休み時間を共に過ごしたりするなど、一人ひとりの子どもとのふれあいを大切にする。○坂本スタンダードを定着させ、課題に対しては全教職員が情報を共有して対応する。
特別支援教育	○児童個々の背景を理解し、保護者や関係諸機関と連携して指導に当たる。 ○特別な支援を必要とする児童は全職員で共通理解し、支援や見守りを行う。	○個別の指導計画を作成し、交流や取り出し、共同学習等、個に応じた支援を行う。○児童支援専任や個別支援級担任と協力し、担任一人で抱え込まない支援体制を構築する。○スクールカウンセラーや関係諸機関を活用し、連携を取って指導に当たる。○支援の方法や対応を記録として残し、着実に引き継いでいく。
保護者・地域連携	○地域の人材や自然、施設等を積極的に活用して教育に生かす。 ○「この町の将来を担う人材は地域で育てる」意識で、協力して指導に当たる。	○生活科や総合学習などを通し、身の回りやまちの中に材を見つけ、人との豊かな関わりを通して課題解決力、コミュニケーション能力を養う。○学校の情報をわかりやすく発信するとともに、保護者や地域の声に耳を傾け、連携して教育活動を進める。
安全管理	○安心・安全な学校を目指し、環境管理や指導を行うと同時に、自分の身は自分自身で守る意識を育てる。	○避難訓練や交通安全教室などを通して、適切で迅速な対応を指導するとともに、児童自身の危機管理能力を高める。○児童登校後の閉門、施錠を徹底し、不審者の侵入を防ぐ。○毎月の避難訓練をいろいろな想定で行い、いざという時の対応能力を育てる。
いじめへの対応	○一人ひとりの心理や特性を多様な視点から見出すよう児童理解に努める。人権教育の充実といじめの未然防止を図るとともに、組織的に迅速に対応する。	○児童の心の動きをとらえるカウンセリングスキルにかかわる研修や、児童の特性を適正にとらえ対応するための特別支援教育の研修を行う。また、人権教育の充実を図る。○いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、情報共有に努める。○いじめに対し組織的に対応し、記録を確実に残すシステムの構築を図る。
人材育成・組織運営	○授業研究やコンプライアンス、危機管理研修、児童理解研修等々、研究研修を年間計画に位置づけ、教職員の力量の向上に取り組む。	○不祥事防止研修を行い、職員の危機管理意識を高め、安心安全な学校を目指す。○メンターチームの研究を充実させ、中堅、ベテラン教師も必要に応じて参加し、学級経営や授業力の向上を図るとともに、学年研究会の充実を図り、教材研究に力を入れていく。○学校組織の見直しを行い、組織的、効率的な運営を目指す。